

| 議 事 録   |   |
|---|---|
| 会 議 名   | 令和 7 年第 3 回新城警察署協議会（定例会）  |
| 日時・場所   | 令和 7 年 9 月 11 日（木）午後 1 時 30 分から午後 4 時までの間   |
| 出 席 者   | 1 委員 7 名（定数 8 名）<br>河合 惠元会長      鈴木 孝浩副会長      今泉 典司委員<br>神尾 笑子委員      安井 研二委員      田村 純子委員<br>笠原 萌々子委員                                 |
|   | 2 警察署員 9 名<br>金子署長              丸田副署長              三並警務課長<br>牧野会計課長      藤村生活安全課長      石井地域課長<br>能代刑事課長      大脇交通課長              森島警備課長 |
|   | 3 有識者等<br>なし  |
| 1 災害訓練の見学<br>協議に先立ち、新城警察署駐車場において、警備課員及び地域課員が廃車予定の自動車を使つての災害訓練を実施した。 |   |
| 2 会長挨拶  |   |
| 3 署長挨拶  |   |
| 4 報告内容  |   |
| (1) 管内の治安情勢   |   |
| (2) 前回の意見・要望に対する具体的な施策の推進状況   |   |
| ア 前回の協議事項   |   |
| 地域全体で取り組む「ながら見守り活動」の促進  |   |
| イ 前回の意見・要望  |   |
| 市民に「ながら見守り活動」を知ってもらうための広報の実施  |   |
| ・ 広報紙への掲載   |   |
| ・ イベント等で必要性を訴える。  |   |
| ・ 企業や団体への P R と協力の要請  |   |
| ウ 施策推進状況  |   |
| ・ 市の広報誌「ほのか」8 月号に「ながら見守り」についての記事を掲載し、市民への広報を実施した。                   |   |

- ・ 夏祭り等で「ながら見守り活動」の必要性を広報した。
- ・ 地元の団体に「みまもり活動中」のマグネットシートの作成協力を要請し、作成されたシートを地元企業の社用車へ貼付してもらい、ながら見守りを実施した。
- ・ その他
  - 「見守り活動」出発式の開催
  - 高校生のボランティアチームと連携した見守り活動の実施
  - 防犯少年団の委嘱を行い、今後少年団と見守り活動を実施予定

5 協議事項

災害対策について警察に望むこと

6 発言の要旨

- ・ 新城は山間部が多いことからドローンを活用する。機動隊にはドローンがあるが署にはないと聞いた。しかし、市役所の防災対策課にはあるという話であるので必要なら市に飛ばして情報共有すべきである。
- ・ 現在予定している災害時の遺体安置場所が使えなくなるので、別の場所を探していると聞いたが、市だけでなく県の施設が使えるように働きかける。
- ・ 地震については海沿いと山間部では被害の規模が違い、危機感に温度差があるように感じる。実際に被害にあうと実感するかもしれないが、市や消防、警察が広報してくれていても伝わってこない。しかし、いつか発生することから広報は必要だと思う。
- ・ 能登の地震では発生後に無人の家屋に泥棒が入ったと聞いたので、災害が発生したら警察には巡回をお願いする。
- ・ 警察に比べて消防の方が災害に対する経験、知識、装備がある。消防署員に教養してもらってはどうか。
- ・ 災害発生時は迅速な対応が必要だと考えるが、普段から訓練しておくことが大切である。警察は市役所や消防と違い地元に住んでいる人は少ないと聞く。そうなると地元に住んでいる駐在所員のウエイトが高くなる。災害時に駐在所員の能力が高いと安心できる。警察官一人一人の能力を高めて欲しい。

7 意見・要望

- ・ 関係機関（市役所、消防）との連携
- ・ 災害警備訓練を実施し、個々の対応力の強化
- ・ 市民に対する広報活動の実施

8 その他

次の開催は、令和 7 年 11 月下旬又は 12 月上旬を予定